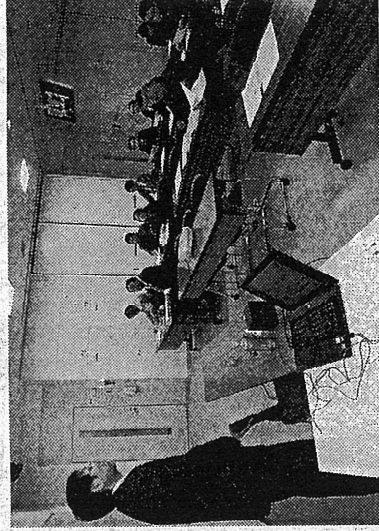


3Dプリンターの活用探る

技術士リテグネットがビジネス研究会



技術士リテグネット(伊藤昌勝理事長)は28日、札幌市内のエルプラザで第6回もつとビジネス研究会を開いた。和光技研の坂井敦行常務が講師を務め、新たなもつとりの潮流の主要となりつつある3Dプリンターの可能性について、参加した20人が意見を交わした。また、試作した工業式水質改善装置「マイクロバブル」のビジネス化

の方策なども探った。同研究会は、技術士と小樽商大ビジネススクール卒業生が、テクノロジーとビジネスの融合でイノベーションを生み出すこと昨年発足。毎月、幅広いテーマを持ち寄り、意見交換している。3Dプリンターは、CADなどの3次元データから断面形状を成形、積層させて立体物を作成するもの。樹脂をレーザーで硬化させたり、粉体を接着剤で吹き付けたり、熱で溶融した樹脂を積み

重ねるなどの方式があり、製造、建設、医療などの分野で使用されてきた。近年、簡易な積層方式のプリンターの普及により個人レベルでの導入も進み、デザインツールにとどまらない超業の武器として注目を集めている。

坂井常務が3Dプリンタービジネスの現状や和光技研ゆほびが事業部で取り組んでいるペットロス症候群対策などの事例を報告。さらなる可能性についての提案を呼び掛けた。

また、建設維持管理センターの上藤亨会長が水質改善装置として開発した簡易マイクロバブル発生装置について、3Dプ

リンターで試作した模型を紹介。今後、ビジネス化に向け、具体的な検討をすすめることを確認した。